

『地域研究のためのフィールド活動型現地語教育』

平成 21 年度派遣報告書

—エジプト、アル＝ディーワーン ガーデン・シティー校、アラビア語、H21.7.29-H21.10.14—

平成 21 年度入学
大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
博士課程 1 回生
川村 藍

自身の研究テーマについて

イスラーム法と他の法律が抵触した場合、解決策を提示し、イスラーム諸国と非イスラームの合理的解決を実現することを目的とする。以前、パレスチナ問題を基に検証していたが、イスラーム金融の方が法規範をめぐって生じる法律問題が多い。また、今後国際的にこの分野の研究需要が増加することが考えられる。

近年の経済危機によって、世界的に現在の金融システムの見直しがなされている。その流れで、イスラーム金融への注目も高まっている。このことから、国際的にイスラーム金融に対する学術的アプローチが大きな関心を受けることは十分考えうる。したがって、イスラーム金融取引における民事紛争を考察することで、イスラーム社会と国際社会の関係を新たな視点で見ることができる。イスラーム金融は主にマレーシアや湾岸諸国を中心になされている。しかし、最近はそれらの国々との関係国もイスラーム金融取引に進出し始めている。

加えて、国際的に関心のある分野であるにも関わらずまだまだ専門家が少ないことから学術的にも需要が増える可能性がある。研究分野が国際的に開拓され始めたということからも、今後イスラーム金融に関連した分野が注目される。

イスラーム金融が抱えるイスラーム法に基づいた問題に注目することによって、国際社会におけるイスラーム諸国の動向考察することができる。イスラーム社会と国際社会の関係を分析するツールとしてイスラーム金融の事例を扱う。

研修言語の概要

アラビア語は口語（アンミーヤ）と文語（フスハ）があり、口語は地域によって異なってくる。エジプトで使用される口語は近隣のヨルダンやシリアで話される口語とは違ったものになる。一方の文語はイスラームの教典であるクルアーンなどで統一されているため、地域差がない。そのため、アラビア語の文献は基本的にフスハで記述されている。

そこで、今回の語学研修では文語であるフスハを習得することを重視した。

語学研究の内容について

アラビア語は発音したとおりに書くため、最初は特に発音の仕方や聞き取りを重視していた。語学学校の先生と一対一で週 5 日 3 時間の授業を語学学校の教科書を元に語学研修の前半を指導していただいた。初めは発音の仕方や聞き取りを重視したものであったが、次第に文章読解が中心となった。教科書は全文アラビア語であり、偶に説明が必要な場合は英語を使うことがあったが、授業中は基本的にアラビア語以外ほとんど使わなかった。また、課題が毎日多く出されるため、課題をこなすのにかなりの時間が費やされた。課題は主に筆記が中心であり、語学研修の終盤には文章作成の指導もしていただいた。また、フスハでの会話ができるように気分転換での雑談はフスハでなされた。

語学研修の終盤にはアラビア語の文献を使った講読が始められた。カイロの本屋で手に入れたイスラーム金融の本を元に単語の意味やイスラームについて学んだ。授業では本に引用されているクルアーンやハディースの意味についての説明をしていただいたり、参考になる文献の収集の手伝いをしていただいたりした。イスラームの用語は一言で説明できるものがほとんどないため、新しい用語が出る度に説明していただいたり、また、疑問があ

れば答えていただいたりして調べていただいた。また、イスラーム金融のみならずイスラーム法についての文献を探しに本屋を巡り、イスラーム法の文献を数多く手に入れることができた。

研修期間中に印象に残った体験や経験

アメリカン大学カイロ校にて開講されていたイスラーム法に関する講義に参加することができた。法を比較する際に使用する言語の問題や法律として確立する前から存在する習慣を概念化する困難について学ぶことができた。また、カイロ大学、アメリカン大学でイスラーム金融を学んでいる研究者や学生にも出会うことができ、英語ではあったが情報収集する機会が度々あった。ルームメイトの尽力でアメリカン大学の文献を借りることもできた。エジプトでの日常会話ではフスハと違った言語が使用されるが、フスハを使用しても通じた。ただし、フスハは文語であるため、現地の人であっても最初は少し戸惑いがあるようだった。

現地でできた友人によってカイロ・オペラで上演された演劇に関わることができ、普段出会うことの出来ない人たちとの交流ができた。また、現地の仲間もでき、充実した生活を送ることができた。

目標の達成度や反省点について

今回の研修を終えてアラビア語の筆記と読解力には顕著な向上が見られる。普段から多くの文章に触れていたこともあり、アラビア語の文献を読むことが以前より格段に早くなった。また、語彙力が増えたことは勿論のこと、アラビア語の感覚も身につけることができたので感覚的に文章を理解できるようになった。以前はアラビア語の文章を見ると身構えてしまったが、今では親しみを感じるようになり自然と読もうするようになっている。アラビア語が身近になったことで更にこの言語に関心を持つようになったと感じる。

一方反省すべき点もある。イスラーム法や金融の単語は英語や基本的なアラビア語では説明できない部分が多かったため、理解するのに時間が掛かった。また、フスハの発音が難しくフスハでの会話はまだ基本的なものしか身につけられていない。今回の語学研修での反省点を踏まえ、現地で感じたことを忘れずにアラビア語の習得を今後続けて行きたい。



アル・ディワーンで使用したテキストの一部



アル・ディワーンで使用したテキストの中身



アメリカン大学での講演風景